

令和6年度 島田小学校教育活動アンケート（学校評価）の結果を受けて

令和7年2月18日（火）

【今年度の学校経営方針】

学教教育目標	しなやかな感性をもち、真剣に学び、未来に向かう島田っ子の育成
めざす学校の姿	めざす学校の姿 ～主体性を育む学校～
めざす教職員の姿	○自ら学び続け、児童の可能性を引き出す教職員 ○自らの人権感覚を磨き、豊かな人間性あふれる教職員 ○「チーム島田」の一員として協働する教職員
教職員・保護者や地域の願い	・進んであいさつをする人に育ってほしい ・相手を思いやり 一生懸命取り組む人に育ってほしい ・自ら考え 学びあい 認め合う人に育ってほしい ・ふるさと島田を大切にする人に育ってほしい
育てたい児童の姿 ＜重点的に育てたい力（資質・能力）＞	○しんけんに学ぶ人 ＜聴く力・考える力・表現する力＞ ○まわりの人に思いやりのある人 ＜気づく力・認める力・行動する力＞ ○たくましく挑戦する人 ＜やってみる力・続ける力・乗り越える力＞
本年度の重点目標（キーワード）	子どもの主体性を育てる
研究主題	「自ら学び、ともに高め合う子どもの育成」～ICTの効果的な活用を通して～

【教育活動アンケートの結果】

回答数 【児童】168 / 170人 (98.8%) 【保護者】111 / 170人 (65.3%) 【教職員】20 / 20人 (100%)

※肯定的評価=「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせた割合

【重点的取組の成果・課題と改善策】

（１）確かな学力を育む授業実践と研究推進～子どもが自ら学ぶ授業づくり～

本年度の重点	具体的な取組（R6）	【児童】学校生活についてのアンケート		【保護者】教育活動についてのアンケート			【教職員】教育活動についてのアンケート		
		観点	肯定的評価	観点	肯定的評価	わからない	観点	肯定的評価	わからない
（１） 確かな学力を育む授業実践と研究推進 ～子どもが自ら学ぶ授業づくり～	◎これまでの実践とICT、デジタル教材を組み合わせることで、主体性を引き出す教育の向上につなげていく。	① クロームブックなどで、自分から進んで調べたり、まとめたりしている。	84	① お子さんは、ICT（クロームブックや視聴覚機器）を活用した学習に意欲的に取り組んでいる。	67.5	14.4	① 学校は、これまでの実践とICT、デジタル教材を組み合わせることで、主体性を引き出す教育の向上につなげた。	90	5
	◎主体的に課題を見つけ、その解決を目指す授業展開を工夫するとともに、振り返りの時間を大切に扱う。	② 自分から進んでめあてを決めたり、振り返りをしたりしながら学習をしている。	72	② お子さんは、自分でめあてを決めたり、振り返ったりしながら、進んで学習している。	50.4	1.8	② 学校は、主体的に課題を見つけ、その解決を目指す授業展開を工夫するとともに、振り返りの時間を大切に扱った。	90	5
	○学校司書や司書教諭と連携をし、「学習センター」「情報センター」「読書センター」機能を充実させ、学校図書館活用教育の充実を図る。	③ 学校やおうちで、１週間に２冊以上本を読んでいる。	61.9	③ お子さんは、読書の習慣が身に付いている。	28.8	0.9	③ 学校は、学校司書や司書教諭と連携をし、「学習センター」「情報センター」「読書センター」機能を充実させ、学校図書館活用教育の充実を図った。	85	5

「ICT の活用によって、自分の考えをもったり、友達と共有したりする意欲的な児童の姿が増えた」「授業の導入を工夫して疑問を引き出したり、児童と一緒に課題を考えたりすることができ、それが課題解決に向かう児童の意欲につながったりした」といった成果も見られましたが、保護者アンケートにおいて、肯定的評価が28.8%～67.5%と低い評価となっています。また、「わからない」が14.4%の項目もあります。

このことから、ICT を活用した学習や、めあて・振り返りを大切にしながら課題解決に向かう学習について、保護者への情報提供が十分でなかったことが考えられます。そこで、便りや懇談会、ホームページなどで保護者に引き続き学習の様子を知らせたり、授業公開日に ICT を活用した学習や課題解決に向かう学習を公開したり、クロームブックを家庭に持ち帰った際に学習の記録や成果物を見てもらったりして、学習の様子が伝わるようにしていきたいと考えます。

また、読書習慣に関しては、学校では朝読書や図書館利用の時間を設け、学校での読書時間を確保してきましたが、読書量に個人差があったり、家庭での読書習慣ができていなかったりする児童の様子が見られました。この点については、改めて学校司書や司書教諭を中心に教職員で共通理解を図り、朝読書や「おすすめの本」の取組を全校で進めたり、児童の読書量や取組の様子を把握して個別に支援したりしながら、家庭とも連携して取り組んでいきたいと考えます。

(2) 子ども同士のかかわりを大切に、思いやりの心を育む教育活動の推進

本年度の重点	具体的な取組 (R6)	【児童】学校生活についてのアンケート		【保護者】教育活動についてのアンケート			【教職員】教育活動についてのアンケート		
		観点	肯定的評価	観点	肯定的評価	わからない	観点	肯定的評価	わからない
(2) 子ども同士のかかわりを大切に、思いやりの心を育む教育活動の推進	①教育活動全体で、人権教育・道徳教育・特別支援教育の充実に向け、多様性の尊重を図る。	④ 自分や友達それぞれのいいところを見つけて、自分も友達大切にしながら生活している。	92.9	④ お子さんは、自分や友達それぞれのいいところを見つけて、自分も友達大切にしている。	84.7	3.6	④ 学校は、教育活動全体で、人権教育・道徳教育・特別支援教育の充実に向け、多様性の尊重を図った。	100	0
	②子ども同士がよりよい人間関係を築けるように縦割り班活動や学級活動の充実を図り、社会性を育む。	⑤ 縦割り班活動や学級活動などで、他の学年や自分の学級の友達の気持ちを考えながら、仲よく活動している。	89.3	⑤ お子さんは、他の学年や自分の学級の友達と関わりの中で、お互いの気持ちを考え、おりあいをつけながら仲よく活動している。	80.1	4.5	⑤ 学校は、子ども同士がよりよい人間関係を築けるように縦割り班活動や学級活動の充実を図り、社会性を育んだ。	100	0
	③全ての子どもを対象とする発達支援的生徒指導を積極的に進め、子ども達の自己肯定感を高める。	⑥ 先生たちは、自分のよいところががんばったことをほめたり、はげましたりしてくれている。	84	⑥ 学校は、お子さんのよいところや頑張っているところを認め、伸ばすようにしている。	84.7	6.3	⑥ 学校は、全ての子どもを対象とする発達支援的生徒指導を積極的に進め、子ども達の自己肯定感を高めた。	90	5

児童、保護者、教職員ともに、全項目の肯定的評価が80%以上になっており、概ね目標を達成していると言えます。学校では、児童についての情報交換を密に行い、共通理解を図って対応してきていますが、さらに肯定的評価100%に向けて、取組を継続したり工夫したりしていきたいと考えます。

(3) 挑戦する心を育む教育活動の推進

本年度の重点	具体的な取組 (R6)	【児童】学校生活についてのアンケート		【保護者】教育活動についてのアンケート			【教職員】教育活動についてのアンケート		
		観点	肯定的評価	観点	肯定的評価	わからない	観点	肯定的評価	わからない
(3) 挑戦する心を育む教育活動の推進	①自分でめあてを決め、継続的な体力づくりを進めたり、物事に挑戦できる場や環境を設定したりする。	⑦ 進んで運動をしている。	80.3	⑦ お子さんは、進んで運動をしている。	71.1	0.9	⑦ 学校は、自分でめあてを決め、継続的な体力づくりを進められる場や環境を設定した。	75	5
		⑧ 上手いいかないことあっても、最後まであきらめずに取り組んでいる。	82.7	⑧ お子さんは、上手いいかないことがあっても、最後まであきらめずに取り組んでいる。	61.3	1.8	⑧ 学校は、自分でめあてを決め、最後まで物事に挑戦する場や環境を設定した。	80	5
	②児童集会を定期的に開催し、全校の前で発表する機会を設定する。	⑨ たくさんの人の前で、発表することができた。	67.2	⑨ 学校は、お子さんが人前で発表する機会をつくっている。	82.9	4.5	⑨ 学校は、児童集会を定期的に開催し、全校の前で発表する機会を設定した。	70	10

児童は、概ね肯定感をもっていますが、さらなる成長を願う保護者・教職員の思いは大きいと考えられます。今年度は、生活時程や様々な活動について見直しを行ってきましたが、教育の現状や児童の実態に応じた目標達成の方法を、家庭・地域の声も聞きながら、協力して考えていきたいと思います。

なかよし運動会、学習発表会など、多くの方の前で発表する機会をもてましたが、個々で発表することが苦手な児童もいます。引き続き様々な発表の場と機会を確保していきたいと考えます。

(4) 地域に関かれ、地域に根ざした教育活動の推進

本年度の重点	具体的な取組 (R6)	【児童】学校生活についてのアンケート		【保護者】教育活動についてのアンケート			【教職員】教育活動についてのアンケート		
		観点	肯定的評価	観点	肯定的評価	わからない	観点	肯定的評価	わからない
(4) 地域に関かれ、地域に根ざした教育活動の推進	①地域支援者との調整を行い、地域の特色(ひと・もの・こと)を生かし、ねらいを明確にしたふるさと教育や総合的な学習の時間等の教育活動を推進する。	⑩ 地域の方と一しょに活動して、島田地区のよさに気づき、島田地区のことを身近に感じるようになった。	79.7	⑩ 学校は、地域教材を活かして学習を通して、ふるさとの「ひと・もの・こと」に愛着をもてるような取組をしている。	73.9	11.7	⑩ 学校は、地域支援者との調整を行い、地域の特色(ひと・もの・こと)を生かし、ねらいを明確にしたふるさと教育や総合的な学習の時間等の教育活動を推進した。	95	5
	②安全指導・安全教育の推進、さわやかネットとの連携により子ども達を守る危機管理体制を確立する。	⑪ 地域の方に、交通安全教室や防犯教室などで教えてもらったことを生かして、生活している。	86.3	⑪ 学校は、地域と連携しながら、安全指導・安全教育(通学路点検、交通安全教室、防犯教室など)を通して、安心安全に過ごせる環境の整備に努めている。	81.1	4.5	⑪ 学校は、安全指導・安全教育の推進、さわやかネットとの連携により子ども達を守る危機管理体制を確立した。	85	15

生活科や総合的な学習の時間などで地域(ふるさと)の素材や人材を生かした授業を行ったり、特別活動などでバス会社とともにバスの乗車指導をしたり、警察・さわやかネットの方とともに夏休み前に防犯教室を行ったりするなど、地域に根ざした様々な活動を行ってきました。このことから、児童・教職員の肯定的評価は高くなっていると考えられます。

ただし、ふるさと学習に関しては、保護者の「わからない」が11.7%あり、取組についての情報提供が十分でなかったことが考えられます。引き続き便りやホームページ等で情報発信していくことで、授業や活動の様子を知っていただけるようにしていきたいと考えます。

(裏面に続く)

(5) 保護者と連携・協力して子どもを支える取組の推進

本年度の重点	具体的な取組 (R6)	【児童】学校生活についてのアンケート		【保護者】教育活動についてのアンケート			【教職員】教育活動についてのアンケート		
		観点	肯定的評価	観点	肯定的評価	わからない	観点	肯定的評価	わからない
(5) 保護者と連携・協力して子どもを支える取組の推進	◎子どもが進んで挨拶できるようにPTA活動と連携した取組を行う。	㊦ 出会った人に、自分から進んで挨拶をしている。	88.1	㊦ お子さんは、地域の方や先生、友達に、進んで挨拶をしている。	60.3	2.7	㊦ 学校は、子どもが進んで挨拶できるようにPTA活動と連携した取組を行った。	50	10
	◎学校だより等の情報発信を行うことで、学校教育の理解を推進する。			㊦ 学校からの「学校だより」「学級だより」「はげんだより」「図書館だより」等の情報発信により、学校教育の様子が伝わった。	73	4.5	㊦ 学校は、学校だより等の情報発信を行うことで、学校教育の理解を推進した。	100	0
	○学習にむかう基礎づくり（家庭での対話や基本的な生活習慣の定着等）の重要性について理解と協力を求め、連携した取組を推進する。	㊦ ゲーム、タブレット、テレビなどの約束をお家の人と決め、守って生活している。	69	㊦ お子さんは、家庭で話し合ったゲーム、タブレット、テレビなどの約束を守り、健康的な生活を送ろうとしている。	50.4	0.9	㊦ 学校は、学習にむかう基礎づくり（家庭での対話や基本的な生活習慣の定着等）の重要性について理解と協力を求め、連携した取組を推進した。	70	15
		㊦ 家庭学習（宿題、自学、読書など）をしっかりとっている。	81.6	㊦ お子さんは、家庭学習（宿題、自学、読書など）が習慣化している。	57.6	0			

児童の肯定的評価の高い項目もありますが、肯定的評価が低く、対策が必要な項目が多く見られます。課題となっている項目は、家庭と学校が連携して取り組むことで効果が上がるものが多く、改めて学級懇談会やPTAの会、学校運営協議会などで話題にあげ、改善策を協議していきたいと考えます。また、学校でも授業や生活目標の取組、委員会活動とあわせて指導を継続していきたいと思います。

情報発信については、引き続き、配布・発信等による情報提供に努めるとともに、発信した情報を見ていただけるように情報の受け取り方について、新年度の登録にあわせ改めて周知したいと考えます。

(6) 職員が協働し、自己研鑽に努める学校づくりの推進＜学び続けられる環境づくり＞

本年度の重点	具体的な取組 (R6)	【児童】学校生活についてのアンケート		【保護者】教育活動についてのアンケート			【教職員】教育活動についてのアンケート		
		観点	肯定的評価	観点	肯定的評価	わからない	観点	肯定的評価	わからない
(6) 職員が協働し、自己研鑽に努める学校づくりの推進＜学び続けられる環境づくり＞	◎積極的なDX化を図り、「より良い職場環境づくり（働き方改善）」を推進し、心身ともに健康な状態で子どもの前に立つ。	㊦ 先生たちは、困ったことがあったときに、話を聞いてくれる。	83.4	㊦ 学校は、お子さんのトラブルや悩みに対して真摯に対応している。	67.5	14.4	㊦ 学校は、積極的なDX化を図り、「より良い職場環境づくり（働き方改善）」を推進し、心身ともに健康な状態で子どもの前に立てよう努めた。	70	10
	◎温かく、思いやりがあり、心理的安全性の高い教職員集団となる。	㊦ 学校に、安心して登校している。	83.3	㊦ お子さんは、学校に安心して登校している。	86.4	5.4	㊦ 学校は、温かく、思いやりがあり、心理的安全性の高い教職員集団となるよう努めた。	95	0
	○校内研究による自己研鑽や修養を図り、学び続ける教師であり続ける。	㊦ 先生たちは、勉強をわかりやすく教えてくれている。	87.5	㊦ 学校は、お子さんの基礎学力の定着に努めている。	67.6	9.9	㊦ 学校は、校内研究による自己研鑽や修養を図り、学び続ける教師であり続けるよう努めた。	90	5

いずれの項目も、児童の肯定的評価は高いですが、保護者・教職員の肯定的評価が低い項目が見られます。保護者の肯定的評価が低かったり、「わからない」の割合が多かったりする項目については、保護者への連絡や説明、対応が十分でなかったことが考えられます。真摯に受け止め、教職員で共通理解し、家庭と学校双方の意思疎通が図れるよう努めていきたいと考えます。

学習については、児童の実態をもとに次年度の取組の方向を定めるとともに、個に応じた指導や支援に努めていきたいと考えます。特に視覚支援や操作活動を丁寧に行い、基礎基本の積み上げを大切にしていきたいと思います。